

新しい仕事の仕方・働き方改革の検討に関するタスクフォース（報告）

～ピンチをチャンスに。どんな状況でも働き続けられる職場環境への転換～

令和2年7月



文部科学省

1 総務課への相談等の電話・メール化



2 予算対応等の省内打合せのオンライン化



3 全ての局内打合せのオンライン化



4 外部有識者との打ち合わせのオンライン化



5 審議会等のオンライン化



6 現場に直接届く行政説明のオンライン化



7 概算払確認のメール確認への省略化



8 内線転送設定による取り次ぎ電話の削減



9 報道相の思い切ったペーパーレス化



10 新採職員や異動者に対するコロナ禍での難しさへの対応



1. はじめに

- 新型コロナウイルス感染症対策によって大きく進展したデジタル化をはじめとする働き方改革をさらに進め、生産性の高い、効率的な働き方へとシフトし、質の高い業務の推進に注力する必要
- 働き方改革検討TFを設置し「若手有志職員」を含むワーキングチームで全てオンラインで議論



2. 現状認識と改革の方向性

- ペーパーレス化や意思決定の効率化など働き方の改善が確実に進展
- システム環境、職員のICT技術、テレワーク下でのコミュニケーション・マネジメントの課題も
- テレワークは約8割、オンライン会議は約9割の職員が今後も活用したいと回答

- 時計の針を元に戻すことなく、新しい働き方（新システム）へ移行することが不可欠
- 行政の質を維持向上させる執務環境を整備しつつ、効果的効率的な取組を新しい働き方として定着させ、社会と共に新しい世界を創造していく自覚
- 優秀な人材を惹きつける魅力的な価値創造の組織への変革

3. 新たな職場環境づくりのための具体的方策の例

（1）積極的なテレワークの推奨

- 管理職が率先して活用を推進、各種研修の実施
- テレワーク実施手続きの簡素化の継続
- 執務室勤務とテレワーク勤務の平等性意識の定着
- 「テレワークの実施に関する留意事項」の周知、好事例の普及 等

（2）オンライン会議・打合せの推進

- 職員用端末からのWeb会議ツールへの接続の検討
- 制限解除端末等の機器の拡充
- スペースの確保等執務環境の整備
- マニュアルの整備とノウハウの共有 等

（3）執務管理、従来の慣行由来の課題への対応

- 書面・押印手続きの廃止の検討、会計関連業務のオンライン化
- 関係機関への通知の公印省略とメール送付の活用促進
- 会議や幹部説明等のペーパーレス化の推進、リモート活用 等

（4）外部機関とのコミュニケーション

- 行政説明等のオンライン実施
- 省内研修におけるオンライン形式の導入
- 新型コロナウイルス感染症に係る積極的な広報活動 等

4. おわりに

「新しい生活様式」を踏まえた新しい仕事の仕方・働き方について、「文部科学省改革実行本部」の体制下で幅広く職員が参画し、引き続き掘り下げて検討するとともに、本報告記載事項を職員一人一人が実践していくことが必要